

令和6年度
神道青年全国協議会神宮研修会

第二講

「御装束神宝」

神宮技師宮本



神宮

五十一号



令和6年度 神道青年全国協議会 神宮研修会開催

会 長 挨拶
第三十代会長
菅原 神 社 禰 宜
溝 脇 育



青年会の会務をお預かりしてから、早二年が過ぎようとしています。今期は、やはり神道青年全国協議会主催「神宮研修会」の当番県として、運営を行ったことに尽きます。神宮におかれましては昨年より、第六十三回神宮式年遷宮の諸準備で大変ご多忙の中にも関わりませず、格別のご配慮とご協力を賜りまして研修会を開催出来ました事に、心より厚く御礼を申し上げます。

また恙なく研修会を終えられましたことは、主催の神青協役員を始め主幹の東海地区の皆さま、参加者の皆さま方のお陰と

会を代表いたしまして、改めて感謝申し上げます。

当会では会員数の減少、兼業神職の増加など会務運営も今後困難になると予想され、少人数でも開催出来る事業にと役員会で検討を重ね、それでいて内容は今までと変わらない、またそれ以上の事業になるように邁進して参りました。

その中で、神青協の令和五年定例表彰において、神宮大麻頒布促進事業として行った「三重県神道青年会オリジナル簡易神棚無料配布」事業が最優秀事業賞を受賞出来たことは、役員一同の頑張りが認められたようであり、一層の励みとなりました。

最後になりましたが先輩諸兄より会務を受け継ぎ紡ぎ、一つ一つの事業を心強く、頼もしく支えてくれた仲間と大過なく過ごせたことは、神宮をはじめ、県神社庁、ご関係各位のご理解とご協力の御蔭と御礼を申し上げます、今後も変わらぬご支援、ご鞭撻のほど何卒お願い申し上げます。

次 期 会 長 挨拶
第三十一代会長
結城 神 社 禰 宜
田 井 健 治



令和六年十二月に開催された臨時総会におきまして、次期会長に推挙、承認いただきまし

た。七十年以上つづく歴史ある本会の重責を担うこととなり背筋の伸びる思いです。

さて少子化が大きな問題となっている昨今、全国の神道青年会を見回してみても会員数、活動人数の減少が目立ちます。本会においてもその例に漏れず、年々減少傾向になっていると実感します。これは青年会活動の大きな転換期になっていることであろうかと考える次第です。

例年、これまで長く継続してきている事業を含め、決して少

なくない事業を、一年を通じて行ってまいりました。また本年度は令和七年三月に十年に一度の神宮研修会が開催され、皆様の御陰を以て無事に乗り越えることが出来ました。一方で開催に向けた検討や準備に費やせた人員は決して十分だったとは言いがたく、研修内容も同じ規模で行う事は出来ませんでした。此の事に鑑みましてこれまで同様に活動を続けていくことは困難な状況を迎えています。その様な中で先輩諸賢が築き上げてきた歴史と伝統を受け継ぎつづも、その活動においてはこれまでとは抜本的に見直し、今の我々が何をすることが最善なのかを見定めて事業を展開していきたいと思っています。

光栄な立場を任せましたが浅学非才の身でありますので先輩方におかれましては私自身が好き勝手な舵取りとならぬよう指導ご鞭撻を賜り、役員・会員の皆様におかれましてはお力添えを賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

令 和 六 年 度 臨 時 総 会

十二月十三日、三重県神社庁において臨時総会を開催した。

今回の開催理由は、次期の会長と監事をあらかじめ選考することによって、役員の任期満了による次期への引き継ぎをスムーズに行うことを目的としたものである。

議題は、次期会長選出並びに次期監事選出が上程され、審議の結果、次期会長に田井副会長、次期監事に溝脇会長と増田副会長が選出され、承認された。

議事終了後、田井次期会長からは、次期会長への選出と承認をいただいたことへの御礼と、令和七年九月頃に開催予定である神道青年東海地区協議会総会並びに教化研修会が三重県当番で行われることについて、三重県一丸となって開催に向けてご協力いただきたい旨の挨拶があった。



会 務 報 告

令和六年 四月

十八日 令和五年度定例総会

二十一名出席 神社庁

五月

十五日 第一回役員会

十四名出席 神社庁

六月

二十七日 第二回役員会

十五名出席 神社庁

七月

六日 福祉活動「白塚海岸清掃奉仕」

八名参加 白塚海岸

八月

二十七日 氏子青年会との合同研修会

十三名参加 伊勢市

九月

三十日 第三回役員会

十五名出席 松阪神社

十月

九日 第四十三回お宮の子供会

十三名参加 松阪神社

十一月

十九日 第四回役員会

十名出席 神社庁

十二月

二十五日 第五回役員会

十六名出席 神社庁

令和七年 一月

二十七日 会員交流会

二十名参加 四日市市

二月

八日 能登半島地震復興支援活動

六名参加 石川県

三月

十四日 長野県との合同植樹事業

八名参加 伊勢市

四月

二十八日 第六回役員会

十一名出席 神社庁

五月

十四日 第七回役員会

十二名出席 神社庁

六月

十八日 新職員交流会

二十四名参加 伊勢市

七月

九日 神宮神道青年会との合同研修会

三十五名参加 伊勢市

八月

十三日 第八回役員会

十六名出席 神社庁

九月

十三日 令和六年度臨時総会

十七名出席 神社庁

十月

二十三日 第九回役員会

十名出席 神社庁

十一月

五日 建国記念の日啓発活動

十一名参加 宇治橋前

十二月

五日 神宮・南部ブロック研修会

二十二名参加 猿田彦神社

令和七年 一月

二十五日 第十回役員会

十三名出席 神社庁

二月

二十七日 北部・中部ブロック研修会

十二名参加 神社庁

三月

十七日 神宮研修会前日準備

十五名参加 神宮会館

四月

十八日 神宮研修会

二十五名参加 神宮会館

〔第四十三回神青協定例表彰〕 最優秀事業賞受賞「オリジナル簡易神棚」

第七十五回神道青年全国協議会定例総会に併せて、令和五年定例表彰式が行われ、全国の単位会からエントリーされた事業の中から、当会の『三重県神道青年会オリジナル簡易神棚無料配布』事業が、最優秀事業賞を受賞した。



この事業は、神棚の保有率と神

棚を拝む頻度が低迷してきている中で、まずは神宮大麻や御神札をお祀りできる環境を整えることを目的として簡易神棚を制作し、県内の会員が奉仕する神社の社頭において無料で配布した。

また、以前制作した御神札の祀り方について解説しているYouTube動画「神棚を祀る」へアクセスできる二次元コードを記載した添紙も用意し、簡易神棚と合わせて配布した。

会員と共に受賞の喜びを分かち合い、今後もより良い事業の企画実施に努めていきたい。



神宮大麻頒布促進運動



昨年度、神宮大麻や御神札をお祀りするきっかけを作るため、神棚を保有していない若い世帯に青年会オリジナル神棚を配布したところ、大変好評であった。

そこで本年は、二十字増の百二十字を各役員の社頭で配布し、また昨年同様、当会制作のYouTube動画「神棚を祀る」の二次元コードを印刷したチラシと神棚奉斎啓発冊子「暮らしの中の神棚」も一緒に配布した。

さらに今年は事業内容をより良いものとすべく、オリジナル神棚を配布した方々に対しアンケートを実施した。「自分でわざわざ購入しようとは思っていないが、無料でいただけてありがたい。大切に使用したい。」「コンパクトなサイズで置きやすい。」などといった声が寄せられ、本事業が家庭で奉斎するきっかけとなることに貢献できていることが確認できた。



社殿・調度品・神祭具・御装束

伊藤商会

〒470-0134 愛知県日進市香久山1丁目608番地1

いいくにさんぱい

フリーダイヤル ☎ 0120-192381

電話 (052) 806-9001

FAX (052) 806-9002

ホームページ <https://itousyokai.jp>

神祭具御装束調進

鈴木半三郎商店

〒516-0077 伊勢市宮町1丁目12-7

(TEL) 0596-23-1881

(FAX) 0596-23-0202

インターネットコミュニケーション&リサイクル

ミエネット販売

代表 楠 康弘

〒516-0001 ミ重県伊勢市大湊町185-川

TEL・FAX (0596) 36-4751

直通 090-2343-4740

メール m-net@amigo2.ne.jp

太鼓作り900有余年

本木製ならではの品格と質の高さは最上級

原木・原皮からの一貫生産工場直売

在庫豊富 各品速納 カタログ送付

諸太鼓製造元 津島神社他多数御用達廻

○神社・仏閣・教会用○雅楽・能楽用各種○祭礼用・舞台用・他

堀田新五郎 商店

☎(0567)26-2412(代)

愛知県津島市下新田町5-123 FAX: (0567)24-7663

メールアドレス: shingoro@pony.ocn.ne.jp

ホームページ: <https://www.hottashingoro-taiko.com>



十月九日、令和六年元日に発生した能登半島地震による災害支援活動を行った。

前日は金沢市内に宿泊、翌早朝から輪島市門前町に向かい、午前中は二班に別れ、門前町道下鎮座の諸岡比古神社と門前町栃木鎮座の石倉神社で活動を行った。

諸岡比古神社では境内の草刈りと大しめ縄の撤去作業を行い、石倉神社では半壊した社殿から神具や左右大神像の搬出作業と倒れた灯籠等の撤去作業を行った。

〔能登半島地震〕 復興支援活動

今回の地震は元日の発災であったことや、インフラの復旧が大幅に遅れている中、同年九

午後からは門前町深田鎮座の太田神社で倒壊した鳥居、狛犬、社標、門松の撤去作業を行った。

作業終了後に、活動をさせていただいた神社の宮司様のご紹介により、当会で備蓄していた水を避難所へお届けした。

この度の復興支援活動では、三重県神道青年会から六名の会員と重機、草刈り機、水、その他支援物資を持ち寄り、また県内各社から集められた三重県神社庁の義捐金を届けさせていた



月の大雨によって度重なる被害に遭われた被災地の悲痛な想いを感じた。

大変なご心労の中にも関わらず、ませず我々を迎え入れていただいた各社の宮司様と地域の方々に感謝するとともに、被災地の一日も早い復興を心からお祈り申し上げる。



第四十三回 お宮の子供会



八月九日、松阪市殿町の松阪神社で第四十三回お宮の子供会が開催された。今年の参加者は十二名で、昨年より少なかったものの大いに盛り上がり、充分楽しんでいたことが出来た。

神社参拝作法の講習および正式参拝では、厳粛な空気の中で真剣



な眼差しで取り組む子供達の姿が多く見られた。

その後、カレー作り体験を行い、自然の中で野菜を切ったり煮炊きをするなど、自分達で作ったカレーの味を堪能した。

また、松阪神社の波多瀬宮司様から神社を案内していただき、神社の歴史を学ぶとともにお話の内容を基にした宝探しや神社カルタで楽しんでいる子どもたちの笑顔が見られたことは、会員一同の大きな喜びであった。



今後も、お宮の子供会を通じて神社をより身近に感じてもらい、様々な機会を捉えて次世代の育成および更なる神道教化に繋がっていきたいと思う。



社殿造営
かやぶき神殿・神具
御霊舎・丸曲製造
設計・施工・販売卸

有限会社 俵田屋

代表取締役 田中 弘 紀
伊勢市宇治浦田1丁目10-38
☎(0596) 22-3905(代)
FAX (0596) 22-3908

全国各神社 御神符御社頭授与品
奉 製 所

國 伊勢國産合資会社

〒516-0025 伊勢市宇治中之切町87
TEL 0596-22-2960
FAX 0596-22-2335

◎多少にかかわらず御用命ください。

神酒 三重の新嘗 醸造元
清酒 宮の雪

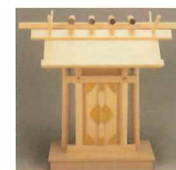
株式会社 宮崎本店

ISO9001・ISO22000 認証取得企業

四日市市楠町南五味塚972
電話 (059) 397-3111
www.miyano-yuki.co.jp

神棚に御札をおまつりし
家内の安全をお祈りいたしましょう

伊勢神宮御用
神岡会館



紙葺神棚 (中)
外寸: 幅46×高44×奥20cm
内寸: 幅25×高32×奥8cm
10,000円 (税込)



洋風神棚
外寸: 幅20.6×高30.6×奥8.2cm
内寸: 幅21.5×高32×奥8cm
2,000円 (税込)



茅葺神棚 (中)
外寸: 幅57.5×高51.5×奥37.5cm
内寸: 幅21.5×高32×奥8cm
50,000円 (税込)

※茅葺神棚・板葺神棚の大きさは各(大)(中)(小)がございます。他に壁掛け用神棚もございます。
種類・寸法など詳しくはホームページをご覧ください。以下の連絡先からお問い合わせください。

TEL 0596-22-0001 FAX 0596-22-1517 E-mail tsuhan@jinguukaikan.jp

毎年、教化研修委員会が企画する県外研修会が、九月十・十一日の二日間にわたり開催された。

今回は、若手の宮司として新しい取り組みや広報活動に力を入れている福岡県の五社（八女市の福島八幡宮、柳川市の三柱神社、太宰府市の太宰府天満宮・竈門神社、福岡市の鳥飼八幡宮）を巡る研修を実施した。

福岡県は、神社が多いことでも有名な土地柄であり、訪れた神社では、それぞれの地域性やアイデアを出しながら、参拝者の方々に



県外研修会



受け入れられる現代の新しい神社づくりに挑戦する姿勢が多い印象であった。

例えば、SNSを効果的に活用することで地域の方以外の人たちに神社を知ってもらう活動や、建築デザイナーの方が手掛ける新しい神社空間の在り方など、普段三重県の神社で奉仕をしている中では感じることができない、福岡の土地ならではの神社を肌で体感することができた。

参加者一同、今後の青年会活動や神社運営の在り方を考える貴重な研修会となった。



白塚海岸 清掃奉仕

七月六日、社会福祉活動の一環として、津市の白塚海岸清掃奉仕に、会長以下八名が参加した。

午前七時三十分頃から、快晴の中ゴミ拾いを開始したが、この日



は気温が高く、熱中症に気をつけながらの活動となった。

「海の豊かさを守ろう」という共通の目標意識をもち、美化活動に直接携わることには大きな意義があり、社会貢献のやりがいを感じ、集団であれば継続できることの大切さを改めて認識できた。

自身の考え方や行動を見つめ直すことにもつながるため、今後も積極的に参加していきたいと思う。

献血報告

献血推進事業として、例年に引き続き役員を中心に献血を行った。私たちの一歩が誰かの新しい行動につながり、この輪が更に大きくなればという思いを込めて、献血者を当会のInstagramとフェイスブックで紹介している。

少子高齢化の影響などにより若年層の献血者数が減少傾向にあると言われる中、当会としても若者らの献血が日本の医療を支えるうえで重要であるということを、根気よく継続して啓発していきたい。



祈る心によりそう御守づくり
京の伝統に真心を込めて

京都奉製株式会社

京都本社 / 東京営業所 / 仙台営業所
福岡営業所 / 東海営業所 / 広島営業所

☎0120-164124 (イロヨニシキ)
京都奉製のHPがリニューアルされました!
是非ご覧ください。https://www.omamori.co.jp/

神都・伊勢の風習を
未来へとつなぐ

デザイン神棚
SHINTO
誕生

神と心のあいだに
伊勢 宮 忠

神祭具 授与品 記念品 奉製

株式会社 神路社

本社
〒516-0037 三重県伊勢市岩瀬2丁目5番29号(私書箱第26号)
電話番号 0596-24-5858 / FAX 0596-24-5110
E-mail info@kamijisya.co.jp

神苑(東日本営業所)
〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿1丁目26番14号ACTビル4階
電話番号 03-3280-6720 / FAX 03-3280-6721
E-mail info-tokyo@kamijisya.co.jp
http://www.kamijisya.co.jp

創業 明治以前

各種御神符・守札 その他授与品全般

湊御神符奉製所

株式会社 湊

伊勢市神宮会館前(〒516-0025)
TEL(0596)22-2442(代表) FAX(0596)28-8445
info@ise-minato.co.jp http://www.ise-minato.co.jp

特集

神宮研修会 開催

令和六年度 神道青年全国協議会



〈主題〉「受け継ぎ紡ぐ〜変はりゆく世の中で守り繋ぐ神宮式年遷宮〜」

期日…令和七年三月十八・十九日
場所…神宮・神宮会館



三月十八・十九日の二日間に亘り本宗と仰ぐ神宮について学ぶ「神宮研修会」が神道青年全国協議会（以下神青協）主催のもと開催。三重県神道青年会は担当として研修内容等の計画を進め、当日も運営に携わった。

本研修会は、時を重ねても変わることのない遷宮の意義を正確に知り、それを後世へ繋ぐために時代に即して柔軟に対応してきた先人達の英知と想いを受け継ぎ、令和十五年秋の遷御が国民総奉賛のもとに肅行されるよう青年神職として力を尽くす決意を強固にし、遷宮の意義に込められた想いを如何に次世代へ紡いでいくかを考える嚆矢となるよう企画。全国各地より約二百名が参加し、参加者は全員白衣白袴で受講。例年の神青協が主催する研修会は、スーツ着用であるが、今回は神宮に関する内容であり、改めて神職としての基本であ

る服装で受講していただく研修会となった。

開講式には、神宮大宮司の久邇朝尊様と三重県神社庁長の塚原徳生様からそれぞれ御祝辞を頂戴した。また、二日目の閉講式には、神宮少宮司の齊藤郁雄様から御祝辞を頂戴した。

二日間の研修内容については、次ページから掲載しているので、ご覧いただきたい。



一日目

第一講 「神宮式年遷宮について」

神宮権禰宜 大野由之先生



天照大御神が瓊瓊杵尊に授けた三大神勅により、日本は天皇の統治のもとに民が神の恵みを受けて永遠に豊かに栄える国であるとされた。神宮式年遷宮は三大神勅の実践であり、大御神の御心を永遠に継承していくものである。

式年遷宮は、神宮最大の重儀であり、二十年に一度社殿や御装束神宝を全て新調し、大御神に新宮へお遷りいただく祭儀である。天武天皇のご発意により持統天皇四年（六九〇年）から始まり、千三百年にわたって古式ゆかしく続けられてきた。日本の風土の特性に従った営林稲作と、自然の循環に従った式年造営の上に成り立ち、持続可能性は国家の永遠と弥栄を意味している。

式年遷宮の二十年周期の根拠について定説はないが、『養老令』や『延喜式』を紐解くと「倉庫令説」が理にかなう。式年遷宮の制度化以前は、社殿の老朽部分を随時補修していたが、制度成立後、全てを一新する造替となった。一定周期で原点回帰する式年遷宮は、四季の繰り返しの中に生きる日本人の感性及び文化的性質に合致する。

昔も今も永遠に変わらない神宮への尊厳、神威への畏敬を継承していくために、国民一人一人が協力し合い、式年遷宮を支えなければならない。

第二講 「御装束神宝について」

神宮技師 宮本史典先生



二十年に一度社殿とともに一新される御装束神宝は、七一四種の一五七六点にのぼる。御装束は大御神の衣服及び服飾品等であり、神宝は殿内に奉安する紡績具、武具、馬具、楽器、文具、日常用具等の調度品からなる。その形状や寸法等には厳とした制約があり、調製に際してはこれを寸分違わず踏襲する。

神宝の中でも代表的な玉纏御太刀、須賀利御太刀は現代の刀装では稀な玉類（水晶・琥珀等）や日本の在来種である赤木、トキの羽といった我が国の古典的材料が用いられており、その他の神宝にも伝統に則した本邦産の調達に意を注いでいる。調製者は高度な技術を要するのは勿論のこと、昭和二十六年開催の第一回神宝特別委員会において定められた選定基準を満たしたものから選ばれる。調製に携わる関係者は約二千人にも及び、人間国宝から若い工匠まで、幅広い世代が携わっている。

まさに御装束神宝は大御神へ奉る最高至貴の御料であり、その調製者達は先人が育み伝えた技芸を継承し、次世代へ紡いでいくのである。

【第一分科会】「皇大神宮域内」



第一分科会では、神宮職員様ご案内のもと、皇大神宮に赴き、御垣内・新御敷地の清掃奉仕を行った。域内見学においては、宇治橋、斎館、祓所、瀧祭神、川原祓所、風日祈宮、忌火屋殿、玉串行事所、御贄調舎、荒祭宮といった要所を案内していただき、各所の歴史や意義、祭典時の様子等について詳しく解説していただいた。普段何気なく横切っている場所であっても、色々な意味合いがあることが知れ、受講生は熱心に聞き入っていた。自分が氏子崇敬者を連れてくる際の参考になったであろう。

清掃奉仕においては、御正宮の御垣内及び新御敷地に立ち入らせていただき、解説を受けたのち、落ち葉を拾う清掃奉仕を行った。限られた時間ではあったが、本研修会でなければ、立ち入ることの許されない場所で清掃させていただくという貴重な機会に、皆目を輝かせている様子であった。

春風強く少し肌寒い中ではあったが、好天に恵まれ、有意義な分科会となった。



【第二分科会】「豊受大神宮域内」



第二分科会では、神宮職員様のご案内のもと、豊受大神宮域内に赴き、まず日別朝夕大御饗祭についての解説並びに当祭の修祓を拝見させていただいた。約千五百年毎日朝夕二回の御奉仕が行われており、悪天候でも欠かすことなく斎行されていることをお話いただいた。その後、せんぐう館と山田工作場をそれぞれ見学した。

せんぐう館では、御正殿御造営のお話をいただいた。使用している木材は檜であり、檜は日本の固有種であること、木を切っても生えてくる豊かな国土であること、元々持っているものを組み合わせ工夫し、調和、和の国の象徴としていることを解説いただいた。

山田工作場では、木材の墨引きの現場を見学した。柱となる木の特徴を捉え、どこか御用材に用いるか等の判断もしながら墨引きをされていた。過去現在の技術を融合させながら、次の御遷宮を見据え、それまで耐えうる建物を建てているとのお話があり、印象的であった。



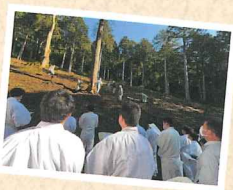
【第三分科会】「神宮宮域林」



第三分科会では作業着に改服し、会館から車で三十分ほど走った場所にある神宮宮域林に到着した。そこで十名ほどの神宮宮域林部の職員様と合流した。

宮域林では、式年遷宮の御用材となる神宮杉についての説明をいただいた。その後、生育している杉の伐採を見学した。伐採に当たっては、遷宮諸祭の一つである「御杣始祭」で用いられる古式の伐採作法である「三ッ緒伐り」で行われた。厳粛とした木々の中で「いよいよ寝るぞ」の掛け声と共に、一本の太木が地面を揺らすほどの大きな音を立てて伐り倒されたことに一同は大変圧倒された。

その後、杣夫の中で一番若い職人が、伐り倒した木から梢を切り取り、それを年長者が受け取り、切り株に供え感謝を表す「鳥総（とぶさ）立て」が行われた。この行為は、木の元（切株）と末（梢）を残し、元と末の間の木を頂戴するということが表されており、神々や木々に対する感謝が示されている。そして世代を超えて受け渡される技術の伝承を目の当たりにし、今日まで受け継がれていることを実感した。



総括



令和七年から第六十三回神宮式年遷宮の諸祭が始まる。遷宮元年となるこの年に当研修会を開催できたことは、神青協を始め全国各地の青年神職のご理解をいただいたおかげである。

終戦後の昭和二十四年に斎行予定であった第五十九回神宮式年遷宮が、社会情勢を鑑み延期をされたことを受け、その当時の青年神職がその事を憂い、遷宮の再興を図ることを目的の一つとして神青協を創立された。当研修会が神青協の主催で開催される意義はここにあるのだと思う。

今回の研修会にご参加いただいた皆様を始め、この会報をご覧いただいている皆様にはこの事を含め、「神宮について」を各奉務神社の氏子崇敬者や次の世代である後輩たちへ受け継ぎ紡いでいただければ幸いである。

最後に当研修会開催にあたり、格別なるご理解のもと研修会を受け入れ、加えて大変有意義な研修内容にご尽力とご協力をくださった神宮様には、心から厚く御礼申し上げます。





建国記念の日 啓発活動

二月十一日の「建国記念の日」に向けて、二月五日に会長以下十名の会員らが宇治橋前で啓発用のクリアファイルを配布した。

時折雪がちらつくほど寒い中で、活動であったが、多くの参加者に受け取っていただき、またその反応から、意義のある啓発になったのではないかと感じることが出来た。



「建国記念の日」は、建国をしのび、国を愛する心を養う日であり、神武天皇さまが大和の橿原（現在の奈良県橿原市）に都を定め、初代天皇として即位された日とされている。次年度以降も引き続き啓発活動を行っていききたい。



長野県神道青年会との 合同植樹事業（初穂曳）

令和三年に、長野県神道青年会と三重県神道青年会の合同植樹事業が開始され、本事業を継続させるための新たな取り組みとして、十月十五日、第五十三回の初穂曳に共同で参加した。

初穂曳は、二十一年に一度行われる神宮の式年遷宮の関連行事「お木曳行事」などを次世代に継承するために始められ、神宮の神嘗祭



全国から多くの参加者が集まった。

雨が降る中でも、「エンヤー」の掛け声とともに綱を元氣よく引っ張りながら練り歩き、主催である伊勢神宮奉仕会様をはじめ壮大な行事を維持運営される方々の思いを実感した。

この行事に参加することで、翌年から始まる御遷宮諸祭に思いを致す契機となった。また自らの手で植樹したヒノキが長い年月を経てこの伊勢の地へ御用材として届

を祝ってその年に収穫した稲穂を神宮に奉納する行事である。当日は、初穂を載せたお木曳車を引



けられるのかもしれないと改めて考えることで伝統を継承する大切さを学ぶことができ、本事業が大変意義深いものであると再確認することができた。



YouTube

Instagram

Facebook

ホームページ

ホームページ
SNSで
情報発信中



うどん食堂つばめや
〒516-0018
伊勢市黒瀬町 953 番地
TEL0596-22-5480

〒602-0011
京都市上京区上御霊前通
室町東入内構町四二四一
電話 〇七五-四一七-三三二七
FAX 〇七五-四四一-三三七六
フリーダイヤル 〇二〇-六四八-八五五
HP <http://yusokukoubou.com>

有職工房
代表 江原永容
御装束・調度・各種祭礼衣裳（神楽等）
授与品 御調製

社寺建築・設計施工 御装束・調度・各種祭礼衣裳（神楽等）
神社・寺御用 株式会社 **甲村**
調整＝御遷宮
〒463-0069 名古屋市守山区新守西1608
電話 〈052〉792-1202
FAX 〈052〉792-1293
御来店は JR中央線新守山駅前店へ
JR中央線 名古屋駅より15分
名古屋 金山 鶴舞 千種 大曽根 新守山 長野
駅前店

えと土鈴・各種土鈴・額皿・人形・御社紋入盃
名入湯呑・素焼製品・その他オリジナル陶製品
神宮司庁御用達
いつき陶苑
〒515-0321 三重県多気郡明和町斎宮2432-1
Tel 0596-52-5702
Fax 0596-52-3713

神宮神道青年会との合同研修会

十二月九日、神宮神道青年会との合同研修会を開催。今回の研修会は、令和七年から第六十三回神宮式年遷宮の諸祭が始まることを受けて、式年遷宮について改めて学ぶために神宮宮掌の西本俊一朗先生をお招きし、「式年遷宮について」と題して講演をいただいた。

まずは、神宮で斎行されている恒例祭や臨時祭、遷宮祭についての祭儀の違いについて解説をいただいた後、式年遷宮についてのお話を伺った。「式年」とは定められた年という意味で、神宮式年遷宮は二十年に一度と定められおり、なぜ二十年なのか、また、なぜ遷宮を行うのかということについて、定説はないものの推定されている諸説があり、それぞれの諸説についてわかりやすく解説いただき、大変有意義な研修会となった。

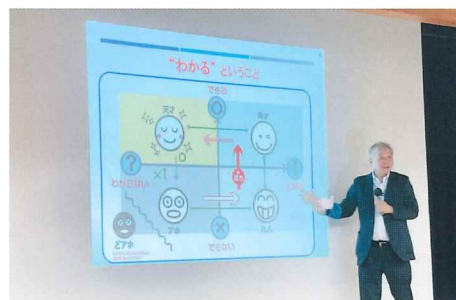


氏子青年会との合同研修会

七月二十七日、三重県氏子青年協議会と合同の研修会を行い、両会会長以下会員合計十九名が参加した。

今回は株式会社ネイベルの代表取締役上島憲先生を講師としてお招きし、「経営者の視点から学ぶこれからの神社の在り方」と題して、多くの会社を経営してこられたご体験をもとにご講演いただいた。「常識を疑う」ということを一つのテーマに、具体的に面白く、また分かりやすくお話しいただき、楽しく拝聴した。

経営のプロの方の話は、我々にとっては普段思いつきもしないが大変参考になる内容であり、多くの気づきを得た研修会になった。



北部・中部ブロック研修会

二月二十七日、北部・中部ブロック研修会が開催され、会員と一般神職含め十二名の参加があった。

今回は「保護司・教護師 神職として罪と向き合う」と題して、比々岐神社宮司である内保隆幸先生をお招きしてご講演をいただいた。

保護司・先生は受刑者や、非行をした青少年達との実体験を基に神道における罪とどう向き合うかお話ししていただいた。

罪を償うことに対して神経質になっている人や心の安らぎの為に宗教を求める人に、神職としてどう何を伝えることができるのか。教義教典のない神道では自分の解釈で伝えることしか出来ないため、日々の研鑽、そして経験が大切と学び、神職としての在り方について考えることができた。



神宮・南部ブロック研修会

二月五日、神宮・南部ブロック研修会が猿田彦神社で開催され、「擬革紙の歴史とワークショップ」と題して、「参宮ブランド擬革紙の会」の堀木茂会長にご講演いただいた。擬革紙とは、和紙にシワや文様、色を付けることで革に擬えた紙のことである。

講演では、その誕生から一度は技術が途絶えたものの、「伊勢擬革紙」として再興させる取り組みに至るまでの歴史を学んだ。丈夫で防水性のある擬革紙は、現代では御朱印帳や財布など様々なものに用いられており、展示会も行われているとのことであった。

ワークショップではコースター作りを体験し、歴史を学ぶだけでなく実際に触れることでその独特の風合い・魅力を感じることができ、有意義な研修会となった。



あなたの本づくり
サポートします！

自分史 句集 歌集
写真集 画集 エッセイ

お問い合わせは下記まで

株式会社 アサプリ三重支社 TEL 059-245-3111

社名変更しました。(旧 株式会社オリエンタル)

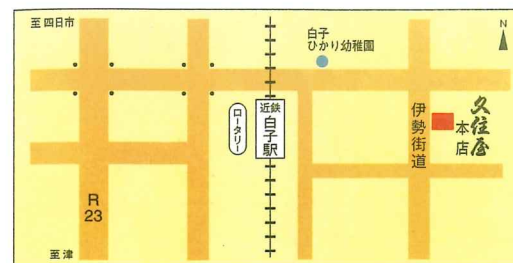
三重県津市河芸町上野2100番地 FAX 059-245-1177 <https://www.asapri.co.jp/>



各種美術看板・企画・設計施工・デザイン・塗装

大和工芸

〒518-0836 三重県伊賀市緑ヶ丘本町4164-1番地内 TEL 0595-23-0226
E-mail: daiwa-k@fancy.ocn.ne.jp FAX 0595-23-1408



久住屋茶舗

●本店 鈴鹿市江島本町7-13 TEL (059) 386-0142
<毎週月曜定休日> FAX (059) 386-8385

創業270年の 伝統技術 桑名 和太鼓 造り

創業宝暦三年 御太鼓師 九代目 阿部甚兵衛

阿部太鼓店

心に響く確かな技

桑名市下深谷部645 (高砂町)
(大桑国道258号線深谷陸橋下西へ50m)

TEL (0594) 29-1110 (代)
FAX (0594) 29-3405



御嶽山噴火災害慰霊祭並びに慰霊登山



一日目は、御嶽神社里宮を正式参拝の後に、松原スポーツ公園内の鎮魂碑前において慰霊祭を肅行し、哀悼の誠を捧げた。慰霊祭では、上皇上皇后両陛下の御製と御歌をいただいて神青協によって作られた「光舞」が奉奏され、祭典後は、降っていた雨も上がり、まさしく光が差した印象的な祭典となった。御嶽山に入る二日目は、まず清滝にて禊を行い、慰霊登山へ向かった。参加者全員での登頂に成功し、御嶽神社頂上奥社を参拝、皆で大祓詞を奏上した。

参拝直



後に天候が悪化し、風雨も厳しく、雷さえも鳴っていたが、災

害後に作られたといふ避難用シェルトーのおかげで、天候が回復するまで過ごすことが出来た。自然の力を目の当たりにし、怖さを感じる天氣の急変であったが、皆無事に下山出来て安堵した。発災から十年が経った今、これを風化させることなく、被災者への哀悼の誠と自然への畏敬の念、それらを胸に今後の神明奉仕に励みたいと感じた。

最後に、現地における本事業に對しての事前準備などにご尽力をいただいた御嶽神社並びに長野県神道青年会の皆さまをはじめ、この事業をともに関わることができた青年神職の同志の皆さまに心より感謝申し上げます。



編集後記

昨年は、五十号を迎えた記念の年でありましたが、今号は次の百号へ向けての第一歩となる五十一号であります。

また本年は、第六十三回神宮式年遷宮の諸祭が始まる遷宮元年の年でもあります。記事の中にもありますが、「受け継ぎ紡ぐ」という主題のもと、神青協主催の神宮研修会も開催され、千三百年にもわたって連綿と繋ぎ紡がれてきた式年遷宮について学んだところがあります。

我々三重神青の活動も、次世代へと確実に受け継ぎ紡いでいく方途を熟慮していかねばなりません。この会報「榊葉」がその一助となりますよう今後も心して編集作業にあたっていきたいと思っております。